

# ねりまの文化財

## 文化財に親しもう！ 東京文化財ウィーク 2009

11月1日から7日までは「文化財保護強調週間」です。全国的に文化財の保護と活用の推進を図るため、各種事業が行われます。

東京文化財ウィークは、これに合わせて都内全域で文化財を一齐に公開するとともに、区市町村教育委員会等で文化財に関連した企画事業を実施するものです。

### ●公開事業

10月31日(土)～11月8日(日)  
区内の国および都指定の文化財などが公開されます。

ぜひこの機会に練馬区の身近な文化財や歴史に触れてみてください。  
詳細は4ページをご覧ください。

### ●企画事業

10月1日(木)～11月30日(月)

### ○文化財講座

「縄文時代を楽しもう！」

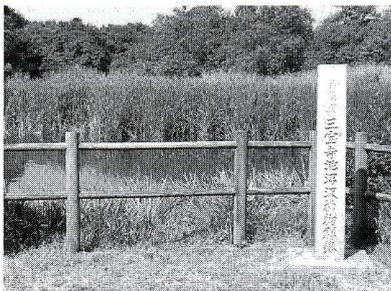
### ○石神井城跡巡りと発掘パネル展

### ○尾崎遺跡出土品解説会



昨年の「石神井城跡巡りと発掘パネル展」で解説を聞く親子連れ

練馬区教育委員会  
生涯学習課  
(文化財係)  
〒176-8501  
練馬区豊玉北6-12-1  
Tel. 03(5984)2442



◇国指定天然記念物◇  
三宝寺池沼沢植物群落

◇ガイド冊子「東京文化財ウィーク」  
東京文化財ウィーク全体の事業内容を詳しく記したガイド冊子「東京文化財ウィーク」は、9月下旬に練馬区教育委員会文化財係(練馬区役所本庁舎11階)や区立図書館などで配布する予定です。また同内容が東京都教育委員会のホームページ上にも掲載されます。練馬区以外の事業にも参加できますので、ご覧ください。

文化財を訪れる際には、所有者や周囲の人の迷惑にならないように注意してください。

### 文化財講座 縄文時代を楽しもう！

#### ◆「尾崎遺跡にみる

縄文土器研究のおもしろさ」

文化庁主任調査官 原田昌幸

都指定史跡の尾崎遺跡について、縄文時代を中心とした研究のおもしろさをお話しします。

#### ◆「縄文時代のくらし」

区郷土資料調査員 都築恵美子

区内の遺跡を通じて、縄文時代の人々の生活について概説します。

#### 【日時】

10月18日(日) 午後2時～5時

#### 【場所】

区役所アトリウム棟

地下多目的会議室

#### 【定員】一〇〇名(無料)

#### 【申込み】

#### 電話受付(先着順)

練馬区教育委員会文化財係

#### ○受付開始

10月1日(木) 午前8時30分～

#### ○受付電話

03(5984)2442



尾崎遺跡出土  
縄文時代早期土器

# 戦国時代 ねりまの領主たち

ねりまの中世は、豊島氏の歴史で語られ、文明9年(一四七七)太田道灌の攻撃をうけた豊島勘解由左衛門尉の石神井城逃亡で終わることが多いでしょう。しかしながら、豊島氏が没落したのは戦国時代の始まりにあたり、百年余りにわたる戦国時代のねりまは、大小さまざまな領主が転変盛衰しました。そこで戦国時代のねりまの領主たちを見てみましょう。

戦国時代の始まる十五世紀半ばころ、区域には、石神井の豊島氏以外にも、練馬郷(旧上・下練馬村周辺)には地名を冠した「ね・まひやうこ(練馬兵庫)」という領主がいました(「米良文書」)。また、豊島氏が主に石神井川沿い地域を押さえていたのに対し、白子川沿いには白子郷(現和光市周辺)を拠点とした庄加賀入道善寿という領主もいました。善寿は、隣接する赤塚郷(京都鹿王院の寺領)の用水使用料を徴収するなど、他人の所領にまで侵入し権益拡大を謀っていたことが知られています(「鹿王院文書」)。そして、善寿の一族とみられる庄中務丞などもありました(「米良文書」)。

## ◇太田氏の時代

石神井の豊島氏が没落した後の約半世紀、区域に関わる古文書や記録類はほとんど残っておらず不明な点が多い

のですが、豊島氏もついていた所領は、江戸城主の太田道灌とその子孫に引き継がれたとみられます。ところが大永4年(一五二四)、江戸城を守る太田資高(道灌の孫か)は、主人の扇谷上杉朝興を離叛し、城と共に相模小田原の北条氏綱に従属しました。江戸城は北条氏に接収されましたが、太田氏の所領は安堵されたとみえ、資高は氏綱の娘を妻とし、その子康資も、永禄期(一五五八〜七〇)初めに氏康(氏綱の子)の養女(遠山綱景の娘)を妻とし、北条氏の有力な一門に列しました。

康資の時代、永禄2年(一五五九)に北条氏が作成した『所領役帳』によると、康資の直轄領九三〇貫文余のうち「石神井」には一七貫五〇〇文の所領がありました。そして、康資には軍事的に付き従う同心(寄りこ)がいましたが、そのうち康資の兄景資は「土志田(土支田)」に六貫五〇〇文、岸某は「石神井のうち谷原在家」に一貫七〇〇文所領をもっていました。また康資の父資高時代に同心であった太田大膳亮は「小樽・保屋」に九八貫八六〇文という大きな知行をもっていました。したがって、太田氏とその同心の所領には、区域の石神井・土支田・谷原・小樽の各所が含まれていたことがわかります(下図参照)。

いっぽう太田氏以外にも区域に所領をもつ領主がいました。北条氏に従う河越衆の金曾木某は「練間(練馬)」に百貫文の所領をもち、北条家臣の嶋津孫四郎は「練間」にあった清光寺の旧領をもち、中村平次左衛門は「練間」にあった豊前方(未詳)の旧領三八貫六八〇文を知行していました。また江戸衆の森新三郎は、吉原某の領していた「中新居(中新井)」一四貫五〇〇文の土地を買い取っています。

つまり、練馬や中新井には、太田氏以外の者の所領があり、それら所領の以前の領主は清光寺や豊前、吉原氏であったこととなります。



永禄2年(1559)頃の領主層の分布  
(図中の線は江戸時代の村区分:参考として)

天文3年(一五三四)練馬郷には、上原雅楽助・孫九郎父子という武士もおり、紀伊国熊野那智社の御師実報院の檀家となる契約を結んでいます(「米良文書」)。太田氏は、豊島氏の旧領の大半を継承したとされていますが、練馬や中新井地域は、当時までに北条氏の侵食が進んでいたか、あるいは、元々石神井豊島氏の所領が多くなかった可能性もあります。

## ◇北条氏(江戸城代)の時代

この状況も長くは続かず、永禄6年(一五六三)末、康資は、安房の里見氏に通じ、北条氏から離叛し上総に移ったため、その旧領は北条氏に収められ、直轄領や家臣の給地になったとみられます。天正期(一五七三〜九二)初め以後、北条氏一門の北条氏秀が江戸城代をつとめ、周辺地域を管轄しました。氏秀は、天正2年(一五七四)石神井三寶寺の相続を保証し、寺内での殺生・竹木伐採・狼藉を禁じる法度も出しています(「武州文書」)。

氏秀の死後には、天正11年(一五八三)頃から早川某という武士が、三寶寺の寺領を押し領して訴えられています。当時石神井辺りには早川という領主がいただけでなく、三寶寺も寺領をもつ領主であったことがわかります。石神井には、三寶寺以外に道場寺も寺領をもっており、永禄5年(一五六二)北条氏康から、以前のとおり不入地として段銭等の税を免除されています。

ます(道場寺文書、左写真)。この両寺院にかぎらず、寺院や神社は多少の差こそあれ所領をもつ領主でした。



北条氏康朱印状(区指定有形文化財)

戦国時代のねりまには、石神井の豊島氏の他にも練馬氏・庄氏などの領主がいました。豊島氏の没落後、その旧領は太田道灌の子孫に継承され、その支配は八〇年余に及びました。永禄2年頃には練馬氏など以前の領主も姿を消し、練馬・中新井地域には北条家臣の知行が増えました。永禄6年に太田氏が退去すると、北条氏の支配はより強化されましたが、それも三〇年足らず、天正18年(一五九〇)豊臣秀吉の侵攻をうけ江戸城も落城しました。

【用語解説】

・貫文(かんもん)：所領から得られる収益等を銭に換算して表示した。1貫は千文、1文(銭1枚)は現在の価値で百円〜二百円程度とされる。

・知行：主人から与えられた所領を支配すること。またその所領。

文化財保護審議会  
委員委嘱(第12期)

練馬区では、区内文化財の保護・保存および活用を図るため、練馬区文化財保護条例に基づき、学識経験者で構成された練馬区文化財保護審議会を設置しています。

主な所掌事務として、①教育委員会の諮問に応じる。②重要事項を調査し、審議する。③重要事項について教育委員会に提言する等があります。この度、平成21年4月1日付けで、左記の8名の方に練馬区文化財保護審議会委員を委嘱しました。任期は2年間です。

○委員一覧(敬称略・五十音順)

- 漆澤その子 日本芸能史・近代史、武蔵大学准教授
- 品田 穰 保全生態学、東京農業大学客員教授
- 柴辻 俊六 日本中世史・古文書学、早稲田大学講師
- 副島 弘道 日本東洋美術史、大正大学教授
- 古川 修文 民俗建築・建築構法、法政大学講師
- 松下 正巳 地域史、早稲田実業学校評議員
- 三田村佳子 民俗学、埼玉県立歴史と民俗博物館学芸主幹
- 森 公章 日本古代史、東洋大学教授

石造物を移設しました

今年3月、区民の方から平和台3丁目所有地にある石造物を譲りたいと連絡がありました。

調べてみたところ、慶応2年(一八六六)に旧下練馬村の人びと17名が、村内安全を祈願して建立したことがわかる石造物でした。

正面には、上部に日・月、下部に三猿像が浮彫りされていることから、庚申塔であったと考えられます。正面中央部の削り取られた部分には青面金剛立像が浮彫りされていたのでしよう。また左側面には「左 ねりま宿 戸田渡し 道」、右側面には「右 上板はし下板はし 道」と刻まれており、道標を兼ねていたことがわかります。

台石の両側面には願主名と今神、渡戸、本村、重現、正久保、下宿、上宿、三軒在家などの字名がみられます。

区は寄贈を受け、開進第一小学校(早宮2-1-31)北側の「埼玉道」標柱の横に移設しました。



第21回練馬区伝統工芸展

◆練馬に生きる 伝統の技◆

代々受け継がれてきた江戸の心と技が込められた作品の数々。この機会に是非、練馬の伝統工芸に触れてみてはいかがでしょうか。

多くの方のご来場を、お待ちしております。

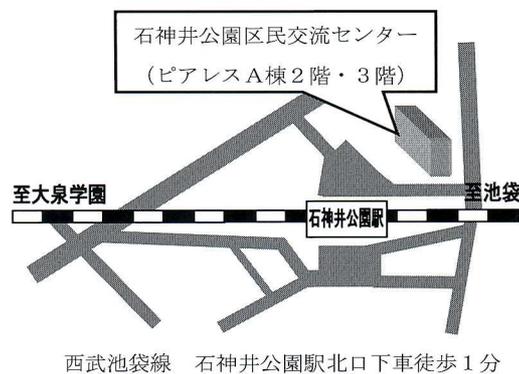
日時 10月23日(金)〜25日(日)  
午前10時〜午後5時

会場 石神井公園区民交流センター  
ピアレスA棟2階・3階

地図参照

内容 展示・実演・体験コーナー  
(予定)

主催 練馬区伝統工芸会  
後援 練馬区・練馬区教育委員会



### 石神井城跡巡りと

#### 発掘パネル展

【日時と内容】

①石神井城跡巡り 11月3日(火・祝)

石神井城跡(中世豊島氏の城郭)とその周辺の解説を聞きながら散策します。

a 愛宕山塁コース(所要約1時間、  
出発:午前11時・午後0時45分・  
2時15分の計3回)

b 石神井城跡主郭跡周辺コース(所要約30分、  
出発:午前10時30分・  
11時45分・午後1時30分・3時の計4回)

②石神井城跡発掘パネル展

11月3日(火・祝)

午前10時30分〜午後3時

平成10年度以降の発掘調査で出土した遺物や、調査の歴史などの展示パネルもまじえながら解説します。

※展示パネルは石神井城跡主郭跡が特別公開される期間中(10月31日〜11月8日、午前9時30分〜午後4時30分)もご覧いただけます。

【場所】都立石神井公園 石神井城跡

【交通】石神井公園駅(西武池袋線)

下車徒歩20分

【申込み】当日現地で(無料)

※雨天中止

【問合せ】練馬区教育委員会文化財係

電話03(5984)2442

### 公開される

## 区内の国指定文化財・都指定文化財

#### ◆尾崎遺跡(都指定史跡)

春日小学校建設にあたって、昭和54・55年に発掘調査された旧石器時代から近世までの複合遺跡です。縄文時代早期の土器、平安時代の火きり臼(火起こし器)、中・近世の陶磁器などの出土品が展示室でご覧になれます。

【場所】春日町5-12-1春日小学校内  
【交通】練馬春日町駅(都営大江戸線)  
下車徒歩8分

【日時】10月31日(土)、11月1日(日)、  
3日(火・祝)、7日(土)、8日(日)  
午前10時〜午後4時

※校内に立入る際には、必ず学校の受付にお申し出ください。

#### ◆尾崎遺跡出土品展示解説会

11月8日(日)午前11時と午後2時の2回、学芸員が展示物の解説を行います。

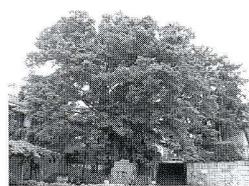


尾崎遺跡出土品  
(区指定文化財)

#### ◆練馬白山神社の大ケヤキ

(国指定天然記念物)

白山神社のケヤキは2本あり、いずれも樹齢約900年と推定される全国でも有数の巨木です。源義家が永保3年(一一〇八三)、「後三年の役」で東北へ向う際、戦勝を祈願して苗を奉納したという言い伝えがあります。



【所在地】練馬4-2 白山神社境内  
【交通】豊島園駅(西武豊島線・都営大江戸線)下車徒歩5分

#### ◆小野蘭山墓及び墓誌

(都指定有形文化財)

小野蘭山(一七二九〜一八一〇)は江戸中期に活躍した本草学(博物学)者です。大正12年の関東大震災の罹災により浅草から現在地に移転しました。



【所在地】練馬4-27 迎接院墓地内(十一ヶ寺墓地内)  
【交通】豊島園駅(西武豊島線・都営大江戸線)下車徒歩5分

【公開時間】午前9時〜午後4時30分

#### ◆石神井城跡及び三宝寺池

(都指定旧跡)

三宝寺池は武蔵野三大湧水池の一つで、石神井川の水源の一つにもなっていました。三宝寺池南側の台地に石神井城跡があります。南側を石神井川に挟まれた要害の地でした。石神井城は中世このあたりを支配していた豊島氏の城で、太田道灌に攻められ文明9年(一四七七)に落城しました。



【所在地】石神井台一丁目・二丁目他  
都立石神井公園内  
【交通】石神井公園駅(西武池袋線)  
南口下車徒歩20分

【公開時間】  
午前9時30分〜午後4時30分

#### ◆三宝寺池沼沢植物群落

(国指定天然記念物)

三宝寺池の中央、「中の島」周辺が指定範囲となっています。



コウホネ、ミツガシワ、ハンゲショウ、カキツバタなどの水生植物を中心に、貴重な植物相がみられます。